

移住就農

新規参入

研修制度

なかにし ひろむ

中西 啓さん（津山市）



就農：2011年（就農当時35歳）
新規就農研修：2010年4月～2011年3月
就農パターン：移住就農（大阪府出身）
耕地面積：130a（うち借地130a）
経営面積：ぶどう98a（ハウス27a）、
野菜32a（サトイモ等）
経営参画者：本人、妻、期間雇用数名

元航海士。地に足ついた仕事を求め、海から陸へ。津山市に根を張った後は、人との“つながり”を大切にしながら、ものづくりに励んでいます。

——就農のきっかけは？

航海士として11年働き、いつかは船を降りて地に足のついた生活をしたい、そう考えていたとき、知人の勧めで「岡山県の新規就農見学ツアー」に参加。見学先の津山市内農業法人の社長と意気投合し、就農を決意。船も農業も自然相手の外仕事という点で同じでもあり、迷いはなかった。

——前職の経験は活かしている？

前職も今も自然相手の仕事であり、いつも天候を気にしなくてはいけない。特に気象の知識・経験がかなり役立っている。

——岡山（津山市）を選んだ理由は？

父が仕事の関係で倉敷に住んでおり、岡山には縁があった。休暇で岡山を訪れた際、友人からぶどう園を回るバスツアーを勧められ、津山市の田中農園の社長さんと出会い、「農業って面白そう」と感じたのがきっかけとなった。まず、羽振りがよさそうだった（笑）。そして農業で食べていけると考えた。ぶどう産地としてはあまり大きくない現在の土地に決めたのは、師匠となる田中農園さんがいたから。田中農園はぶどうが中心ではないけれど農業経営や機械の扱

い方など、農業の基礎を学びたいと思い、新規就農研修に入った。

他の土地や有名な産地も見て回ったけれど、ここが一番楽しそうな印象だった。やっぱり“人”が大事。

——「ぶどう」を選んだ理由は？

農作物の中で一番いいイメージがあり、技術、収入、体力的に新規就農者でもやっていけそうだと感じた。趣味ではなく仕事なので、まず、生活を考える事が重要だが、岡山県におけるぶどうには安定したブランド力もあり、収入が見込めることから選択した。

——就農で苦労した点と解決方法は？

【農地】

研修を1年で切り上げて急いで就農したのは、早く始めたかったことに加え、農地確保のタイミングがあったから。最初の畑は普及指導センターの紹介、その他の畑は自分で見つけた。移住者の自分は土地を借用しないと農業ができない。師匠に習った“つながり”のなかでよい方々からお借りできた。今、3人の地主さんからお借りしている。

【資金（経営・生活）】

生活資金については、十分に準備しておく必要がある。経営資金については借入制度の活用も可能だが、中古で揃えると制度が活用できない。ぶどうは収穫までの4年間は予定数量の収穫が見込めず、成園になるまでの生活費が一番大きい。自分は野菜経営中心の師匠に倣い、ぶどうと並行して野菜を生産して初期の資金負担のハードルを乗り越えた。

【栽培技術】

指導機関（普及指導センター、JA）による講習会及び最初に借りた畑の方からの技術指導を受けた。

【住宅】

暮らしと仕事が密接に関わる農業だからこそ、暮らす場所も重要。研修中は津山市街のアパートに住んで畑に通った。

就農にあたり畑の近くの物件を探す際、まわりの人にそれとなく「家を探しています」「買います」と伝えると「あるよ」との情報が集まった。

【機械・施設の準備】

施設、機械についてはほぼ中古で、自己資金で揃えた。中古でそろえるノウハウについては師匠の田中農園さんから教わり、整備、修理については農大での資格取得も活用し、自分で行っている。

——計画と現実のギャップはあった？

就農時に運よく25aの成園を借りることができ、うまく滑り出せると思った。しかし、栽培技術も未熟だったので思うように生産収入をあげることができず、自己資金はあっという間に消耗してしまった。経営が黒字になるまで数年かかった。

——地域への適応、順応に苦労した点、気を付けた点は？

他所から来た人でも『役に立つ人』だと受け入れてくれるので、消防団やJAの青年

部に入る、小学校の役員などに積極的に取り組むことが重要だと思う。師匠に学び一番心に残ったのは「人との“つながり”が絶対大事」だということ。「自分の時間を割いてでも人との“つながり”を大事に下さい」といわれ、ずっと守っている。

——今後やりたいことは？

津山市の久米地域には新しい人も次々入ってきているので、今後は彼らを順調に育てていく事が使命だと思っている。

新規就農に対して確固たる覚悟や考えを持つ人材を応援、サポートしていきたい。

——経営目標は？

今のところ、個人で経営可能な規模を目指している。数字では3千万円くらい。それ以上だと法人化、雇用などフェーズを変えて考える必要があると思うので、まずはコンパクトな個人経営を目指している。

——農業のやりがいは？

一番よかったことは農業が「楽しい」こと。予定など自分でいろいろ決められる「自由」がある。

——今の産地の魅力は？

若い人が次々入ってくるので産地に活気がある。皆が仲間で、ライバルでもあり、切磋琢磨しており、楽しい。

——就農前の自分へのアドバイスは？

資金不足のために就農後、テンポよく規模拡大できなかった。もっと資金を準備してから就農したほうがいいよ。

——私の一文字

「学」。

学んできた、学んでいるからこそ今があると思う。